

# 感染症学

(Infectious Disease Science)

担当教員

教授 小田 真隆

教授 藤室 雅弘

科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等
薬学専門教育（講義）	2年次 後期	講義	1.5単位	必修

## 【概要】

近年、新たな病原微生物（SARS-CoV-2、エボラウイルス、鳥インフルエンザウイルスなど）や抗菌薬の乱用・濫用による薬剤耐性菌（黄色ブドウ球菌、緑膿菌、アシネトバクター属菌）の出現は、現代医療の抱える新たな脅威として深刻な問題となっている。本講義では、医療人として必須な微生物学的、そして疫学的知識を身につけるため、細菌学、ウイルス学、真菌学、原虫学について解説する。さらに、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗原虫薬に関する概要について説明する。

この授業は対面授業と同時配信型授業で構成する。学生の皆さんには隔週で対面授業を7回、同時配信型授業を7回受講してもらう。状況によりオンデマンド配信講義とする。

## 【授業の一般目標】

感染症を引き起こす微生物の特徴、および治療薬について統合的に学習し、感染症学を修めることを目指す。

[ 関連する卒業認定・学位授与方針 ] DP1・DP2・DP4

## 【準備学習(予習・復習)】

講義では教科書を用いて重要ポイントを明示するので、復習中心の学習を心掛けること。予習復習を合わせて1週あたり150分程度の学修が必要である。内容については、その都度指示する。

## 【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	病原微生物総論	小田	病原微生物の特徴を説明できる	C8-(4)- -1,2 D1-(2)- -1
2	感染症の発症機構	小田	感染成立のための病原因子を説明できる	C8-(3)- -6 C8-(4)- -1,2 C8-(3)- -6
3	病原細菌と感染症#1	小田	グラム陽性球菌およびグラム陽性桿菌の特徴を説明できる	C8-(4)- -3
4	病原細菌と感染症#2	小田	グラム陰性球菌およびグラム陰性桿菌の特徴を説明できる	E2-(7)- -2,4,9 C8-(4)- -4
5	病原細菌と感染症#3	小田	グラム陰性らせん菌および抗酸菌の特徴を説明できる	C8-(4)- -5,6
6	病原細菌と感染症#4	小田	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫の特徴を説明できる	C8-(4)- -7,8,9 C8-(3)- -1,2 E2-(7)- -1,2 E2-(7)- -1,2
7	抗菌薬の作用メカニズム#1	小田	抗菌薬のグループと基本構造や作用機序を説明できる。	C5-(2)- -1,2 E2-(7)- -1 E2-(7)- -1
8	抗菌薬の作用メカニズム#2	小田	抗菌薬のグループと基本構造や作用機序を説明できる。	C5-(2)- -2 E2-(7)- -1 E2-(7)- -1
9	抗原虫・抗真菌薬	小田	抗原虫薬や抗真菌薬の基本構造と作用機序を説明できる。	E2-(7)- -1,2 E2-(6)- -2 E2-(7)- -1,2 E2-(7)- -1
10	病原ウイルスと感染症#1	藤室	ウイルスの構造、分類、増殖機構について説明できる。	C8-(3)- -1
11	病原ウイルスと感染症#2	藤室	DNAウイルスの特徴を説明できる。	C8-(4)- -1
12	病原ウイルスと感染症#3	藤室	RNAウイルスの特徴を説明できる	C8-(4)- -2
13	抗ウイルス薬と感染症治療#1	藤室	重要なウイルス薬（抗ヘルペスウイルス薬、抗インフルエンザ薬）の基本構造と作用機序を説明できる。	E2-(7)- -1,2,3 E2-(7)- -1
14	抗ウイルス薬と感染症治療#2	藤室	重要なウイルス薬（抗HIV薬、抗肝炎ウイルス薬）の基本構造と作用機序を説明できる。	E2-(7)- -4,5,6 E2-(7)- -1

	(書名)	(著者・编者)	(発行所)
教科書	薬学領域の病原微生物学・感染症学・ 化学療法学(第4版)	増澤俊幸、河村好章 ほか	廣川書店
参考書	戸田新細菌学 第34版 薬がみえる vol.3	吉田真一 ほか 岡庭豊 ほか	南山堂 Medic Media

【成績評価方法・基準】

定期試験(100%)の成績を基準に評価する。

【評価のフィードバック】

講評は、合格発表日に掲示にて公開する。